

2012年度 事業報告・決算承認 定時社員総会

6月15日に開催した京都保健会定時社員総会は、2012年度事業報告、決算、定款変更等の議案を全員一致で承認し、役員を改選しました。承認された事業報告、決算の概要は次のとおりです。

1. 事業活動の到達

京都民医連中央病院は、2017年本館リニューアルに向けた5つの目標を掲げ、事業活動を進めました。急性期医療とリハビリテーションの充実を柱に、大腸肛門病センター、腎・循環器センター開設、乳腺外科を強化し、患者数、手術件数も増加しました。9月に京都府がん診療推進病院に指定され、認知症ケアチームの設置などチーム医療にも旺盛に取り組みました。QIP、医療の質向上・公開推進事業（全日本民医連、日本病院会）に参加しました。

入院目標を達成し、特に民医連外の紹介が増加し事業収益を大きく伸ばしました。2013年1月に「ザ・連携と医療の質」をテーマに411床化後1年の医療活動について、交流集会を開きました。

医師体制は、13卒初期研修医6名フルマッチ、後期研修医2名、中途採用3名を迎え、また、大学派遣で麻酔科・放射線科医の常勤体制をつくりました。

地域完結型医療をめざし、本館南2階・西館西2階・西3階病棟を再編しました。医療活動を進めるため、既卒医師確保プロジェクトを設置し、教育機能向上

のため教育研修センターを目的に別館南側の物件を購入しました。

経営活動では、これまでのDPC、HCU、回復期リハビリの本館に加えて、西館（地域医療棟）112床をフル稼働させ、411床ベッドコントロール運用を強化しました。医療活動を旺盛にすすめる、事業収益・事業損益でも予算を大幅達成、最高の収益利益で法人全体の経営改善を牽引しました。

吉祥院病院は10月にあらぐさ診療所を統合、「機能強化型在宅療養支援病院」となりました。医療活動では重点課題8点の具体化を進め、病院リニューアル工事を8月に着工し、4期の現地改修工事をすすめています。経営活動は10月以降改善傾向にありますが、2013年度が正念場になっています。

上京診療所は、外来、在宅、保健予防の目標に沿って事業活動を展開し、電子カルテにも慣れ、システムを確立しつつあります。友の会「見守り隊」との協力もすすめました。

右京区と上京区に2拠点を持つ京都市北西部の介護事業は、訪問看護（訪問リハビリ含む）、訪問介護、居宅支援、地域包括、デイサービスの事業を進めました。業態により事業・経営活動の到達に差異があり、トータルとしての経営改善は法人的課題となっています。

京都協立病院は、介護療養23床の医療療養への転換、よりよい支援連携室の設置、訪問診療の開始

「2020年の綾部・福知山を展望するみんなでドリームプロジェクト」の推進、電子カルテ導入準備（2013年4月稼働）等、2025年に向けた検討、事業を行いました。

2. 経営活動の前進

2012年度決算は、経常損益は予算を超過し4億1933万円（2.7%）、純損益は2億7023万円（1.7%）を確保し、市内病院構造転換事業を経営構造転換につなげる第一歩となりました。診療報酬・介護報酬の同時改定、吉祥院病院現地リニューアル開始の厳しい条件がありましたが、中央病院が大幅に改善し、病院群として利益を確保出来ました。しかし、吉祥院病院、京都協立病院の改善はこれからの課題です。41事業所中21事業所で予算を上回る経常利益を確保しました。

患者動向は対前年で、入院患者件数が1万6651件（106%）、延患者件数が19万1674件（101.8%）と増加しました。入院1件当りの日当円も3万8144円（107.4%）と伸ばしました。外来は患者件数が再び減少に転じ、延患者件数は4年連続減少しました。上京の診療所化、診療所の医師体制変更等も影響しています。既存事業所のうち中央・あやべ・ふくちやま、まいづる、仁和歯科が実・延件数とも増やし、太子道・春日は実件数を増やしました。健診は多くの事業所で増加しましたが101.7%と前年を上回りました。

2012年度に創設した寄附金制度には、373件、3千万円近くのご協力を頂き、保健会への期待と信頼を表しています。